

全出張所の整備完了 消防署津山出張所が開所

老朽化により新築工事を進めていた市消防署津山出張所が完成。開所式は7月21日、同所で開かれ、市や地域住民など関係者ら約40人が出席し地域防災拠点施設の完成を祝いました。

津山町柳津谷木地内に完成した新庁舎は、鉄骨2階建てで床面積は497.47平方メートル。事業費は2億7393万円です。平成18年度から進められた出張所整備は、津山出張所の完成で全ての整備が完了しました。

津山区長会長の亀井陽逸さんは「津山は山と川があり、土砂災害や水害も想定される地域。より良い防災活動の拠点として期待しています」と話していました。



関係者たちによるテープカット。市内でも防災意識の高い地域への防災拠点の完成をみんなで祝いました。

愉快的な競技で汗流す 身障者スポーツ大会開催

第11回登米市身体障害者スポーツ大会（市身体障害者福祉協会主催）は7月10日、迫体育館で開かれ、障がい者やその家族約180人がスポーツを楽しみました。

バドミントンのラケットでボールを運ぶ「ビックスプーンリレー」や輪投げをする「UFO」、尻で風船を割る「ケツ圧測定」などユニークな9種目で競いました。登米町上館の千葉みね子さんは「大会に参加するのは今年で5回目。毎年大会を楽しみにしています。今日の種目で楽しかったのは「よちよちペンギン」です。来年もぜひ参加したいです」と話していました。



ビニールボールを股に挟んで歩く「よちよちペンギン」。慣れない歩き姿に、参加者からも観客からも笑いが起きていました。

百聞は一見にしかず 東和中生が職場体験実施

東和中学校（牛渡正哉校長）2年生の職業体験学習は7月29日から31日の3日間、市内事業所の協力を得て開かれました。

市役所で職場体験したのは、佐藤和真君、佐藤海月さんと畠山梓さんの3人。29、30日は窓口受付など、31日は、広報紙編集の仕事を体験しました。3人は、職員から広報の仕事内容やカメラの使い方などの説明を受け、職場体験をしている同級生の取材に。体験後3人は「市役所はデスクワークだけでなく、いろいろな仕事がありびっくりしました。仕事をすることで、新しい発見があり有意義でした」と話していました。



ネクサス南方店で職場体験中の同級生を取材する3人。取材をしながら、それぞれの仕事の情報交換をしていました。

聞くから見るものへ 和太鼓フェスとめを開催

第12回和太鼓フェスティバル in とめ（和太鼓フェスティバル in とめ実行委員会主催）は7月11日、登米祝祭劇場で開催されました。

参加した8団体は、宮城県太鼓連絡協議会に所属しており「宮城県太鼓連絡協議会登米連」を組織しています。フェスティバルの幕開けは、同協議会が団結の象徴としている演目「鼓音」。8団体の息の合った演奏に、観客からは割れんばかりの拍手が送られました。その後、各団体は迫力ある太鼓の音と動きで観客を魅了。迫町赤沼から訪れた鈴木千和子さんは「1回目から見えています。昔と違い、いろいろと趣向が凝らされており、毎回来るのが楽しみです」と話していました。



現在の和太鼓は、音だけではなく大きな動きもあり、観客を「耳」だけでなく「目」でも楽しませてくれます。

建設提言の準備整う 庁舎建設市民会議を開催

第10回登米市新庁舎建設市民会議は8月6日、市役所迫庁舎で開かれ、前回会議で示された新庁舎建設に関する提言書の案の最終調整をしました。

提言書の案は、同会議が平成27年2月から10回の会議を重ねまとめられ、市民会議は今回で終了となります。浅野俊委員長は「真剣に議論を重ねてまとめた提言書には、市民の生の声が届いています。今後の新庁舎建設に反映してもらえることを期待します」と語りました。最終調整をした提言書は、近日中に布施孝尚市長に手渡される予定となっています。



より良いものにするよう、意見を交わす委員ら。市民の意見や思いも込められ、会議は終わりを迎えました。

おかげさまで15周年 記念館15周年事業を開催

本年7月で開館15周年を迎えた石ノ森章太郎ふるさと記念館は7月18日、記念式典を安永寺講堂で開催しました。式典には関係者、区長や友の会会員など約70人が出席し、15周年の節目を祝いました。

また、同日から開館15周年記念第50回特別企画展「漫画家による仏の世界展」が始まり、多くの観客が訪れました。栗原市若柳から訪れた森裕恵さんは「仏像が描かれているだけかと思っていました。しかし、それぞれの解釈で描かれており、広がりがあり華やかで楽しかったです」と話していました。企画展は10月12日まで開かれています。



一流漫画家が描く仏を見る来場者。皆さんご存じのキャラクターが仏となっており、見るものを楽しませていました。